

二〇一六年 四月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

遇あいがたくして今遇あうことを得たり、聞あきがたくしてすでに聞あくことを得たり。

『教行信証』 うけゆくしんじょう

この言葉は、親鸞聖人が書かれた『教行信証』に出てくるもので、親鸞聖人ご自身が尊敬すべき師に出遇えたこと、そして真実の教えを聞くことが出来たことへのよろこびを述べられています。

親鸞聖人は「こで「遇」という字を用いています。この字は「偶然あう」という意味です。みなさんの日常を振り返ってみても、たまたま同じ学校だった、たまたまクラスが一緒だった、たまたま同じクラブ活動だったなど、人との出遇いとは正に偶然だと思えます。四月に入り新入生は中学生生活、高校生活がスタートします。二年生、三年生も年度が変わり、新学年として新たな気持ちで始業式を迎えたことだと思えます。新しい環境になり、この一年もみなさんにとって多くの出遇いがあることでしょう。出遇いを大切にしてください。そして、平安での仏教との出遇いも改めて大切にしてください。三つの大切である「言葉」「時間」「いのち」を大切に出来ていますか。自分自身を振り返ってみましょう。

今月の聖語

自己にうち克つことは、他の人々に勝つことよりもすぐれている。

『ダンマパダ』

『ダンマパダ』とは、釈尊の教えを集めたもので、人間そのものへの深い反省や生活の指針を短い句によって示したものです。

「こで述べられているように、釈尊は自己に打ち克つことの大切さを説いています。日常生活を振り返ると、私たちはよく周りの人と比較し、優越感や劣等感を感じることがあるのではないのでしょうか。もちろん、周りの人に刺激を受け、自おらを高めていくことは大切なことです。しかし、本当に大切なことは、他と比較して得られるものではなく、自分自身の壁を乗り越えた先にある成長や、自ら掲げた目標に対する達成感ではないのでしょうか。

新年度を迎えました。釈尊が示すように、「自己にうち克つ」と「を日常の教訓として、今年度も勉強やクラブ活動に精進していきましよう。